

世界には、映画「真夏の夜のジャズ」で知られる「ニューポートジャズフェスティバル」をはじめとして数知れないこの種の催しがある。日本でも、企画に加わったことのある「ナムジャズイン」をはじめ、現在では全国各地でジャズフェスティバルが開かれて、真夏の風物詩としてすっかり定着している。

だが、六八年思いがけない成り行きから初めてモントルーに足を踏み入れて驚いたのは、他のフェスティバルと違って、厳格なコンテスト方式で行われていたという点だった。前年スタートしたばかりのモントルーには、世界各
国から権威ある評論家やジャーナリストが招かれて審査員に委嘱され、一方出演者は、ヨーロッパの国々から一団一団とされるグループユニティ(西ドイツ)、T・レベントイトリオ(オランダ)、さらにはモントルーのあとに探訪することに決めていた東ヨーロッパからの抜群のテクニ



△22▽

は、パークレイ音楽院の奨学金が与えられることになってきた。
東欧のグループも
ちよっとわずらわしいかも
しれないが、ヨーロッパのジャズに興味をお持ちの方々のために主な出演グループを紹介すると、イギリスからは、バストソリストとなっ
たJ・サーマンを含むM・ウエストブルック・オーケストラ、デンマークからは優勝してその年ニューポートに出演したP・ミツケル
ボルグのグループ。その他、前衛的手法のボーカリスト、K・クロックをフィーチャーしたJ・ガルーバレック(ノルウェー)、A・シュリッペンバッハをリーダーとするグループユニティ

モントルーはプロが競い合うコンテスト

等々——つまり数年後には、日本でも次々にそのLPが発売されることになった。まさにその国を代表するにふさわしいプロ中のプロがめじる押しだったんだねえ。

イトクラブには、特別ゲストのビル・エバンスが四日目の六月十五日に、そして最終日にはニーナ・シモンが出演した。クラブの方の客は、小メス(ベース)、J・デジョネット(ドラム)を伴っていた。事故のため二十五歳で急死した革新的なベーシスト、S・



初来日し名古屋を訪れたビル・エバンス、右は夫人=1973年1月、名古屋国際ホテルで

で、ビルと再会して自然に言葉をかわず仲になった僕は、七三年初来日した名古屋公演のあと、ホテルのステキハウスに、ビルと彼を献身的に支えたマネージャーのヘレン・キーン女史(モントルーの名盤の頭に、彼女にささげた「ワン・フォー・ヘレン」が聴かれる)を招いて思い出に残る一夜を過ごしたが、学者肌で物静かなビルの面影は今も忘れられないのだ。

貞夫が特別ゲスト

お話もとして、その翌月約束通りニューヨークで貞夫に会った時、モントルーでの体験を話したら、「よーしそのコンテストに出よう」と言ったのはびっくりした。もっとも、コンテストの対象がヨーロッパのミュージシャンに限られること、賞自体が貞夫にとつてすでに無意味なために、その願いはかなえられなかったが、代わって特別ゲストで招かれることになった。

こうして七〇年、その希望を果した貞夫と言いつつ僕の僕が、モントルーで再度落ち合ったことになったのは、当然の成り行きだったかもしれないね。

(内田 修)

に委嘱され、一方出演者は、ヨーロッパの国々から一団一団とされるグループユニティ(西ドイツ)、T・レベントイトリオ(オランダ)、さらにはモントルーのあとに探訪することに決めていた東ヨーロッパからの抜群のテクニ

今も忘れえぬビル

これは後日談になるが、モントルーのあと、イギリスの「ロニースコットクラブ」

(内田 修)